



林業振興を目指して

答

いずれの事業も、チェーンソーや刈払い機などの林業機械や防護服などの装備品の導入を支援する事業であるが、補助対象者が異なっている。既存の事業では、作業請負林業者や自伐林家など個人の小規模事業者を対象としているが、今回の事業では、林業の経験がなく、新たに異業種から林業に参入しようとしているかたを対象としており、建設業者や運送業者更には移住者も対象になると想定している。

新規就業時の負担軽減を行い、林業の担い手確保・育成につなげ、新規就業者が森林経営管理制度による森林整備に携わることで、将来的には本市の林業振興に寄与するものと考えている。

三好和彦議員



- (一般質問)
- 1 子どもの弱視対策について
 - 2 コロナ禍における防災・減災対策について

子どもの弱視対策は？

問

3歳児健康診査において、視覚スクリーニング検査機器を導入し、視覚検査を行っているが、検査機器導入前後で弱視発見率はどのように変化したのか。

また、弱視の多くは、一般的に3歳頃から治療すれば、95パーセントは改善できると言われているが、検査により要精密検査となった子どもの保護者に対し、どのように対応しているのか。

答

令和元年度からの検査機器導入後、弱視と診

断される割合が増加しているため、弱視の早期発見、早期治療開始につながっていると考えている。

また、要精密検査となった場合は、受診券を発行し、満4歳になるまでに眼科受診するよう勧められている。機器導入後、精度の高い検査結果が出るようになったことから受診行動につながり、受診率は大きく向上している。

なお、精密検査の未受診者に対しては、満4歳になる前に電話などにより受診勧奨を行うとともに、受診ができなかった4歳以上の幼児についてもあらためて早期の眼科受診を勧め、未受診者の解消に努めている。



機器を利用した視覚スクリーニング検査

幼稚園、保育所及び認定こども園の取組は？

問

視覚スクリーニング検査機器による検査に加えて幼稚園、保育所及び認定こども園で視力検査を行うことの重要性、また、弱視の早期治療が子どもの進学や就職にも大きく影響することを理解していただくため、行政から強く呼びかけることで、本市の弱視をゼロにしたいと考えているが、弱視発見率の向上のため、どのような取組をしているのか。

また、遊び感覚で検査できる絵本を活用した新しい視覚検査キットを導入する考えはないのか。

答

現在、公立の幼稚園、保育所及び認定こども園では、3歳児クラス以上の園児にランドルト環や動物の絵のカードなどを利用した視力検査を全施設で実施しているが、私立保育所などでは視力検査実施率が全体で25パーセントであったことから、今後、時機を失することなく検査の重要性を周知・啓発し、

現在、公立保育所などでは、園児の年齢に応じた視覚検査キットを活用しているが、新たな視覚検査キットの導入については、今後、更新の際に検討したい。

実施率の向上に努めたい。視力検査の実施においては、さまざまな指標による検査方法がある中で、園児が検査方法を理解するとともに、検査を行う際に興味を持って楽しく取り組めるものを利用することもたいせつであると考えている。

現在、公立保育所などでは、園児の年齢に応じた視覚検査キットを活用しているが、新たな視覚検査キットの導入については、今後、更新の際に検討したい。

なお、私立保育所などでは、各施設の判断で視覚検査キットを購入することになるが、市に相談があれば、貸し出し可能な視覚検査キットを紹介し、対応していきたい。



絵本を活用した検査キット